

令和5年度 かほく市立高松小学校 学校評価中間報告 (前期アンケート結果・改善策)

重点目標	具体的取組 ★かほく市教育重点項目と関わる項目	現状	評価の観点 (評価者の観点)		実現状況の達成度判断基準	評定	3者アンケート結果		結果の 考察	判定	今後の方針 (改善)	学校運営協議会委員のご意見	
			評価者	A			A+B						
1 確かな学力と体力の育成	① 学習規律 学習規律の徹底を図る。 ◇正しい姿勢、ベル学の徹底 ◇ほめと励まし ◇規律の意味の指導	学習ルールへの徹底が必要である。	満足度指標	ほめと励ましを適切に用いて学習規律を指導しているか。(低学年)規律の意味を指導している。(高学年)	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師①	47.4	94.8	教師A、教師B、教師Cの結果が、昨年度の同時期に比べて5%下がっている。	A	「学習の約束5か条」を意識し、掲示を活用して指導を継続する。特に姿勢に関しては、どのような姿勢が良いのか、なぜその姿勢が良いのか保健の面からも指導していく。	・授業参観を見る限り、落ち着いて学習しているように感じる。 ・保健とも連携して、理由を示しているのがよい。
			努力指標	学習のきまりを守って学習していますか。	児童アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童	児童⑨	66.7	94.3				
	② 授業力・指導力 授業力・指導力の向上★ ◇児童が達成感をもつ授業の構築 ◇個別指導の充実 ◇主体的に学習に取り組み、深めるための授業づくり	教材研究を深め、児童が「わかる・できる」といった達成感のある授業を構築する必要がある。	努力指標	学習における一人一人の様子を見取り、対処しているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師②	36.8	100	教師・保護者のA評価が高くないものの、3者の肯定的評価の平均は90%を超えており、昨年度よりも僅かに上がっている。	A	児童自身が主体的に学習に取り組むことができるよう、個別最適と協動的な学びの一体化を図る授業を目指す。そのために、児童自身が学習方法や解決方法を選択できるような取組を実践していく。	・児童が達成感をもつ授業の構築で児童の評価の観点が「授業が分かりやすい」でよいのか?例えば「授業でこんなことが分かった」とか「こんなことができるようになった」と思うことがあるか?と問うのではどうか。
			満足度指標	お子様は、学校の授業がわかりやすいと言っていますか。	保護者アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	保護者	保護者⑤	44	89.8				
			満足度指標	授業は分かりやすいですか。	児童アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童	児童④	61.2	95.5				
	③ 学校研究 授業力・指導力の向上★ ◇全員が理解できるための工夫 ◇再試行させるための工夫 ◇思いを伝え合うことの重視(カリマネの柱)	研究の重点について共通実践に努める必要がある。	努力指標	全員が理解できるための工夫や、児童の再思考につながる効果的な発問を工夫しているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師③	26.3	78.9	教師のA評価は昨年度より10%上がっているが、肯定的評価は10%下がっている。児童のA評価、肯定的評価はほぼ同じである。	B	研究の重点である全員理解を目指し、学力向上プランの共通実践に取り組む。職員を取組状況を周知し、教職員の意識向上を図る。	・全員理解のためには、基礎学力の定着が必要ではないか。 ・150周年式典で児童が地域から学んだことを伝えたい思いが伝わってきた。
			満足度指標	授業中や休み時間に自分の思いを伝えることができているか?	児童アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童	児童⑥	48	86.8				
	④ ICTの活用 ICTの活用 ◇一人一台タブレットの効果的な活用	情報活用能力の育成が必要である。	努力指標	一人一台のタブレット端末を授業で効果的に活用しようとしているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師⑥	26.3	84.2	児童の肯定的評価はほぼ変わらないが、教師の肯定的評価は20%以上上がった。	A	職員研修の充実を目指し、より効果的な実践を行っていく。研究会での報告会を通して教師の困り感を解決していく。	・タブレットを授業で効果的に活用できていることは素晴らしい。これからの教育に欠かせないので、さらに研修を深めてほしい。
			満足度指標	タブレットを学習に役立てていますか。	児童アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童	児童⑤	78.4	97.6				
	⑤ 学びの土台 学びの土台作り ◇基礎基本の定着(話す聴く書く) ◇言語活動の充実(条件作文、読み取り新聞)	基本的な学習内容の定着に差があり、その定着に努める必要がある。	努力指標	学びの土台としての共通実践に取り組んでいるか。(NEW)	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師⑦	47.4	100	A評価、肯定的評価がどちらも高いことから、共通実践として取り組んでいることを、児童と教師が共有できている。	A	基本の徹底を目指し、毎月取り組み週間を設けた。さらに浸透していくように、取り組み状況の確認や掲示物の活用を行い、向上に努めていく。	・～です。～ます。と、きちんと話せることが大事だと思う。
			努力指標	「高松っ子の話し方・聴き方」ができていますか。(NEW)	児童アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童	児童⑪	46.3	89.8				
	⑥ 体力・運動能力 体力・運動能力の向上 ◇体力づくり1校1プラン ◇かけ足・なわとび運動 ◇全校外遊びタイム	児童の健康づくりのため、日常的な指導や保健・学活の授業の充実が必要である。外遊びも含めた1校1プラン等の全校的な取組を更に充実していく必要がある。	努力指標	1校1プランを意識した運動を授業等で取り組んでいるか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師⑧	15.4	76.9	教師の1校1プラン、運動の工夫に対する教師のA評価が昨年度よりもさらに低くなった。	B	・水泳学習や器械運動の授業では、体育指導員を招き、器械運動の技能や泳力の向上を図った。 ・今後はかけ足・なわとび運動、スポチャレいしかわ(40m走、8の字とび)の取り組みに合わせて、取り組みの内容や楽しく運動できるようにする方法を職員に周知し、体力・運動能力の向上に努めていく。	・教師間の共通理解、共通実践が必要だと感じる。
努力指標			体を動かす遊びや運動をしていますか。	児童アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童	児童⑱	71.9	92.3					
努力指標			児童が楽しく運動できるように活動を工夫して指導しているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師⑨	25	83.3					

2	心の教育の推進	⑦ 挨拶・表現	挨拶・表現 ◇場に応じたコミュニケーション (家庭・地域・学校)	人間関係づくりの基本であるあいさつを学校内外で進めていく必要がある。	満足度指標 児童は場に応じた挨拶を行っているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師⑩	14.3	95.3	3者の肯定的評価は昨年並みであるが、A評価が約5%ずつ上がっている。	A	・よいあいさつをできている子を褒めたり、放送や集会で全校で紹介したりする。そうすることで、よいモデルを全校で共有していく。	・自分から挨拶してくれる子が多くいる。 ・常に声をかけて挨拶の指導をしていくことが大事。 ・春ごろよりも挨拶をしてくれる児童が増えた。 ・自転車の乗り方が悪い。集団で坂道スピードも落とさずに走っていく児童をよく見かける。事故があつてからでは遅い。				
		⑧ 道徳教育	道徳教育の充実 ◇道徳授業の改善	道徳実践力を身に付けるために道徳の授業を充実していく必要がある。	努力指標 考え、議論する道徳授業に向け、中心発問を吟味しているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師⑫	18.8	93.8					昨年度とほぼ同じ結果である。	A	・週案に中心発問を位置づけることを職員で共通して取り組む。 ・授業のポイントやICTの効果的な活用方法について会議で提案することで共通理解し、授業後半の充実を意識する。 ・発問を意識して授業に取り組み、通信を発行し家庭や地域との連携を図る。	・道徳は、結果・答えが1つでなく、プロセス等が大事と言われる。日常生活や家庭での話、コミュニケーションの場が多ければ多いほど良い。地域の老人と話すなど、場を設けることよい。 ・議論のみに陥らぬよう、心に落とす場も必要だと感じる。 ・昔から見ると、思いやり等、随分向上しているように思う。
		⑨ 特別支援	特別支援教育の充実★ ◇共通理解と対応 ◇保護者・外部機関との連携	特別支援教育の理解と児童のニーズに合った対応が必要である。	努力指標 支援を必要とする児童のニーズを共通理解し、全職員で対応しているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師⑬	42.9	90.5					A評価は13%、肯定的評価は5%上昇している。			
3	いじめ、不登校、問題行動等の未然防止・早期対応	⑩ 生徒指導3機能	生徒指導3機能を生かした指導★ ◇一人一人を大切に作る学級経営 ◇自己肯定感を高める活動の推進(いいとこ見つけ)	児童一人一人のよさを引き出し、よりよい人間関係を構築し、自己肯定感を高める必要がある。	努力指標 児童の思いに寄り添う指導を心がけているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師⑭	65	100	保護者・教師のA評価、肯定的評価は昨年よりも高い。児童の評価はやや下がっている。	A	児童一人一人の良さを認めるような肯定的な声かけをしていく。授業や普段の生活の姿から教師が児童の良さを見つけ、広めていく。また、学級や異学年でもいいところ見つけを実施し、よい人間関係を構築し、自己肯定感を高められるようにする。	・児童の自己肯定感をより高める活動や指導をしてもらいたい。 ・児童に寄り添う指導がいろいろなことにつながっていくと思うので、取組は素晴らしい。				
					満足度指標 学校(担任等)はいろいろな事を相談しやすいですか。	保護者アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	保護者	保護者⑪	42.3	93.3								
					満足度指標 自分にはよいところがあると自認していますか。(市共通児⑥)	児童アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童	児童③	53.5	85.6								
⑪ いじめ対策	いじめの未然防止早期対応★ ◇いじめに関する認識と情報収集(いじめアンケート、個人面談) ◇いじめ対策チームの機能化	一人一人の児童を確実に把握し、更にきめ細かな支援が必要である。	努力指標 日頃から児童の変化を見取り適切に対応しているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師⑮	45	100	教師・保護者のA評価、肯定的評価が昨年度よりも上昇した。児童のいじめに対するA評価が100%にならない。	A	・今後もなかよしチェックアンケートを実施し、児童の見取りやいじめの未然防止に努める。 ・学校でのアンケート結果のお知らせやいじめ未然防止のための取組を生徒指導通信などで家庭に連絡することで、学校と家庭が連携して児童の様子を見守り続けるようにする。	・いじめに対するアンテナを高くして、早期発見・早期対応を徹底してほしい。 ・対応をチームとして機能させることは大事だが、日々の出来事を教員同士が気楽に話せることが大事かと思う。 ・いじめはどんなことがあってもいけないうちの子を100%にするために、人権の指導が日々の生活の中でなされるとよい。 ・下校時、和気あいあいと会話しながら帰宅していく。いじめの雰囲気は感じられない。						
			満足度指標 学校における、いじめの未然防止や早期発見のための取組が伝わってきますか。(市共通保⑦)	保護者アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	保護者	保護者⑨	29.6	85.1										
			成果指標 いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。(市共通児⑦)	児童アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童	児童⑭	92	98.7										
			成果指標 いじめ対策チームが迅速かつ組織的に機能しているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師⑯	65	95										
⑫ 不登校対策	不登校等への対応★ ◇共通理解 ◇カウンセリングマインド	児童の困り感に寄り添う姿勢をより一層心掛ける必要がある。	努力指標 日頃から友達関係に目を配り、トラブル等の未然防止、早期対応に努めているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師⑰	50	100	児童・保護者のA評価が昨年度より若干下がった。教師の肯定的評価が100%、A評価は10～15%上がっている。	A	児童理解の会で名前が出た児童やアンケートなどの結果を共有し、学校が楽しくないと思っている児童に寄り添う声かけを行い、組織的に対応していく。	・いじめ同様、児童理解に努めて、学校が楽しくないと思っている児童を減らしてほしい。 ・どうして楽しくないのか、よく話を聞いてあげてほしい。チーム対応を継続するとよい。						
			努力指標 保護者への連絡を密にし、誠実に対応しているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師⑱	47.4	100										
			満足度指標 お子様は、学校へ行くのが楽しいと言っていますか。(市共通保①)	保護者アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	保護者	保護者①	58.5	91										
			満足度指標 学校へ行くのは楽しいですか。(市共通児①)	児童アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童	児童①	61.2	94.3										

4	家庭・地域との連携	⑬ 学習習慣・生活習慣 学習習慣、生活習慣の定着 ◇家庭学習の習慣化 ◇基本的な生活習慣の定着 ◇メディア利用の自制	児童の学習習慣を確立すると共に、生活習慣を整える必要がある。	成果指標	学年に応じた家庭学習の時間(学年×10分)が定着しているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師⑯	23.5	94.1	児童の「計画を立てて学習」の項目が昨年度よりもA評価が20%、肯定的評価が10%上がっている。10時までに寝ていない児童は昨年度と同程度の40%、ゲーム・ネット使用時間3時間以上の児童は11%(45人)いる。	C	・「自分で計画を立てて学習する」とはどういうことなのかを児童と共有し、家庭学習週間の前に一緒に計画を立てるようにする。また、取り組み後は振り返りの機会を設け、計画的にできたという実感や次回のためあてを持たせるようにし、定着を図っていく。  ・学校でのアンケート結果を生徒指導通信に載せたり、家庭学習と合わせてメディアコントロールに取り組みだりして、学校で行っている対策が保護者と共有できるようにしていく。	・「自分で計画を立てて学習する」とどのような成果が出るのかを児童が実感できるようにするとよい。 ・保護者の力も借りて、一緒に計画を立てていけるようになることよい。このことをテーマに、PTAのトーク&とーくなどで話し合っはどうか。 ・1日2時間は多すぎる。ゲームやスマートフォンの電源を入れたら30分で切れる設定にするなど、工夫すればよいと思う。
				満足度指標	お子様は、自分で計画を立てて勉強していますか。(市共通保④)	保護者アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	保護者	保護者④	25.4	67.9				
				成果指標	自分で計画を立てて勉強していますか。(市共通児④)	児童アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童	児童⑮	42.5	76.8				
				成果指標	いつも何時頃寝ていますか。	10時までに寝る割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童	児童⑰	59.5	85.6				
⑬ 生活習慣	学習習慣、生活習慣の定着 ◇基本的な生活習慣の定着 ◇メディア利用の自制	児童の生活習慣を整える必要がある。	成果指標	お子様は1日(平日)に平均してどのくらいメール・ネット(ライン・ゲーム・動画・インスタグラム・フェイスブック・ツイッターなど)をしていますか。(市共通保⑤)	2時間未満の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	保護者	保護者⑱	1時間未満 33.6	2時間未満 75.6	児童	児童⑬	44	75.8	
			成果指標	1日(平日)に平均してどのくらいメール・ネット(ライン・ゲーム・動画・インスタグラム・フェイスブック・ツイッターなど)をしていますか。(市共通児⑤)	2時間未満の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童	児童⑬	1時間未満 44	2時間未満 75.8					
⑭ 地域連携	コミュニティ・スクールの充実 ◇外部講師・地域人材の活用 ◇歴史、自然、文化、人の教材化	地域社会に関心をもち、地域についての理解や愛着を深める必要がある。	努力指標	地域の資源(人、自然、文化、歴史)を活用した活動や授業を行っているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師⑳	50	100	肯定的評価は100%。資源活用のA評価が20%上がったが、地域連携のA評価が8%下がった。	A	・創立150周年を迎える今年は、地域とのつながりをより意識した教育課程を組み、どの学年も地域に出かけ地域に学び、児童自身が主体的に地域に対してできることを考えて学習しているところである。 ・挨拶については、昨年度、来校者に対してあまり積極的にできなかったが、今年度は地域からお褒めの電話をいただくこともあり、児童にフィードバックすることで、より意識が高まっている。	・150周年の児童の発表を見ていると、児童が地域に飛び出している活動している様子がよく分かった。	
			成果指標	挨拶、通学の安全等の取組において地域と連携できているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師㉑	35	100					
5	教職員の働き方改革	⑮ 業務改善 行事、会議、業務等の精選・改善 ◇効率化に向けた改善	行事の精選、会議の効率化におお層努める必要がある。	努力指標	それぞれの学年や、校務分掌において、精選・効率化に向けて提案を行っているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師㉒	19	95.2	昨年度に比べ効率化のA評価、肯定的評価が15%上がった。支援員活用のA評価が10%、肯定的評価が15%上がった。	A	・教職員の放課後の業務時間を生み出すため、日課を変更し(掃除後の10分間のくんぐんタイムを無くした)、児童の下校時刻を10分早めた。 ・ICTやICT支援員を活用した業務改善を行った。学校保護者間連絡システム(コードモ)を活用して配付物をデジタル配信したりすることができた。しかし、いろいろな行事や研修が再開された他、業務が一定の職員に偏り、業務の平準化が難しい。	・放課後や帯タイムの時間を無くしたそうだが、学習が遅れがちな児童への指導をおさなりにしないでほしい。働き方改革と児童への指導時間の兼ね合いが難しい。
				努力指標	学校コーディネーターや業務支援員を活用して多忙化改善に努めているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師㉓	50	95				
⑯ 意識改革	意識改革 ◇日々の勤務における意識化	教職員個々が意識的に取り組む必要がある。	成果指標	定時退校日(水曜日)、退校時刻の上限(19時30分)の取組を守っているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師㉔	28.6	71.5	A評価が昨年度より5%上がった。	C	今年度は、教諭4名が異動したにも関わらず、教諭2名と常勤講師1名の配置となり、級外が1名減となった。そのため各教員の持ち時数が増加し、それに伴う教材研究の時間も増加したことで、平均残業時間が約5時間増加している。退校日や退校時刻を意識し、仕事をもち帰っている職員もいる。コロナ前に全てを戻すのではなく、児童にとって大事なものは何かを考え、業務を精選していく必要がある。	・子どもたちの成長のための日頃のご尽力に感謝する。これからも健康に気を付けて子どもたちのためによりしくお願いします。	

<評価者> 1 保護者の評価(保護者→学校・児童・保護者) 2 児童の評価(児童→児童・教師) 3 教師の教育活動評価(教師→学校)

<判定基準> 児童・保護者・教師の3者評価の肯定的A+B評価の割合が、90%以上がA、80%以上がB、70%以上がC、70%未満がD(A+B評価が90%未満の場合及びA評価の推移を重視して、取組の改善を行う。)